Topics 特集

新しいヘルパー支援の形 ～生活版ジョブコーチ支援の紹介～

生活の中での困りごとは目に見えにくく、支援につながりにくいことがあります。支援センターではそのような困りごとに対し、生活版ジョブコーチ支援を行いヘルパーさんにつないでいます。今号は、この支援の流れについてご紹介します。

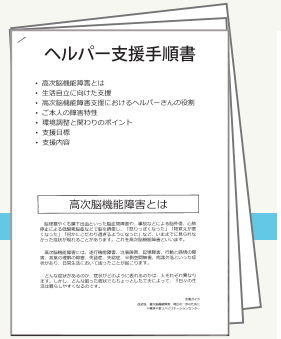
支援センター

基本情報を収集し、主訴を把握します。

面談

本人の困りごとに対して自宅訪問し実際の生活を見ながら、何が原因で上手くいっていないのか、アセスメントします。原因が分かったら、どんな工夫があれば自立出来そうかご本人に合った方法を繰り返しの訪問の中で試していき、環境調整を行っていきます。

ヘルパー支援手順書作成



本人に合った方法（環境）がわかったら、地域支援者に繋げるための『**ヘルパー支援手順書**』を作成します。項目は、本人の障害特性と対応、ヘルパーの役割、支援のポイント、実際の支援内容等、となっています。具体的には、自立できていない生活行動のすべてを対象にせず、優先順位をつけて達成しやすい目標を設定すること、ヘルパーの役割は、介助する事ではなく、見守り・声かけ・確認が中心となること、一旦目標を決めても目の前の困りごとに注意が向き目標がぶれることがあるため、今の目標に戻れるように修正してあげること、などが盛り込まれています。

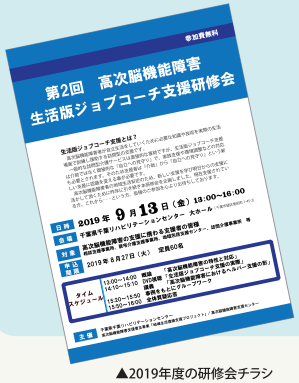
生活版ジョブコーチとは？

高次脳機能障害者が自立生活をしていくために必要な知識や技術を、実際の生活場面で訓練し援助する訪問型の支援です。これは名古屋市総合リハビリテーションセンターが開発したアウトリーチ型支援です。一般的な訪問型介護サービスは直接的な援助ですが、生活版ジョブコーチ支援は介助ではなく間接的な『自立への見守り』で、家族支援や環境調整などの対応も必要とされます。そのため、『介助』から『自立への見守り』という新しい支援に認識を変える事が必要です。支援内容は、家事、金銭管理、服薬管理、スケジュール管理、など生活全般に及びます。

生活版ジョブコーチ支援研修会

この支援手法を多くの方に知って頂くために、県内の地域支援者向けに2018年度より研修会を開催しています。今年度はWEB研修会での開催を予定しています。日程が決定しだい千葉リハホームページにてお知らせ致します。ぜひご参加下さい。

▲2019年度研修会の様子



▲2019年度の研修会チラシ

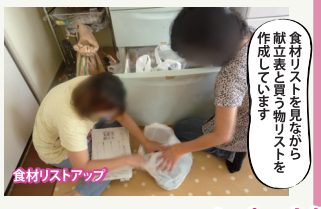
自立に向けて

生活版JC支援は、目標支援が達成したら終了となります。ただし、支援を終了したとたんに今まで出来ていなかったことが出来なくなってしまう方もいるため判断は慎重にする必要があります。**「支援の中での自立が出来ていることが高次脳機能障害者の自立の一つの形」**という考えも必要になります。

▼片づけが上手くいかない原因を評価

支援あるある

ご本人が目標にしたことが出来るようになると、「訪問しても確認して見ているだけ、もうヘルパーは終了でもよいのでは？」と言われることがあります。ヘルパーさんは直接手を出すことがないと申し訳なくなるようです。しかし、ヘルパー訪問を中止したとたん、今まで出来ていたことが出来なくなってしまうことがあります。ご本人から**「来てくれるから出来るんです」**と言う言葉が聞かれるように、ヘルパーさんが来てくれることで、行動が起こせる・軌道修正が出来る・繰り返しによって定着出来る、のです。



ヘルパー支援開始

ヘルパーへの引継ぎ：まずは支援手順書をもとに丁寧に説明をします。そして実際の支援を行う場面を見て頂きます。

ヘルパーフォローアップ：伝達した支援が上手く行われているか、困ることはないか、訪問し確認します。支援状況に合わせてフォローアップ頻度を変えていきます。